

猫は室内で飼いましょう

『家庭動物等の飼養及び保管に関する基準「第5 猫の飼養及び保管に関する基準」』に
猫の室内飼育に努めることが明記されています。

屋外には危険がいっぱい！

飼い猫を外に出している飼い主は、これらの危険にさらしていることを忘れてはいけません。
飼い猫がこれらの危険に遭遇した場合には、命を落としてしまうかもしれません。



感染症

- ・猫エイズ（猫免疫不全ウイルス感染症）
- ・猫白血病ウイルス感染症
- ・猫伝染性腹膜炎 など



交通事故

- ・車と衝突する
- ・車の隙間に入り込む など



迷子

- ・予期せぬ事態（大きな音等）でパニックになる
- ・病気や怪我で動けなくなる
- ・繁殖相手を探し放浪する

予期せぬ繁殖

- ・望まない子猫が生まれる



近所からの苦情

- ・糞・尿被害
- ・ゴミを荒らす
- ・鳴き声
- ・花壇が荒らされる
- ・爪で車が傷つけられる など



ケンカ

- ・縄張り争い
- ・メスをめぐる争い など



家にいれば
安心だね～



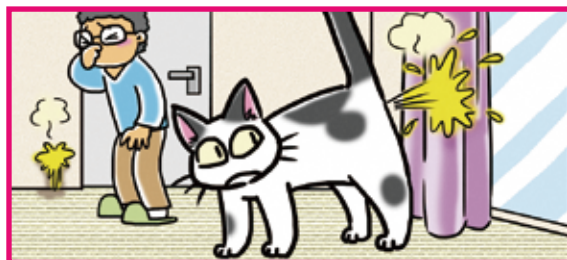
室内飼育でも身元表示を忘れずに！

室内で飼っていても、突然の災害や逸走(脱走)に備えて日頃から迷子札やマイクロチップ等の身元表示(所有明示)をしておくことが必要です。動物病院への移動中や、大きな音など、思いがけないきっかけで猫が迷子になることがあります。万が一のときに後悔しないよう、日頃から身元表示をして、迷い猫にさせないようにしましょう。

※猫の首輪は引っかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用するとよいでしょう。

室内飼育でも不妊・去勢手術！

子猫が生まれることを望まない場合や、生まれた子猫を全て幸せにできない場合は、不妊・去勢手術をしましょう。病気の予防やストレスの軽減になり、繁殖のための争いや逸走(脱走)、望まない妊娠を予防できます。また、オスの場合は、去勢手術をすることにより、あちこちに尿をかけるスプレー行動の予防にもなります。



猫に快適な室内環境

猫に快適な環境を整え、飼い主が良いコミュニケーションをとることで
室内飼育で幸せに暮らせます。

上下運動

猫は高いところや立体的な移動を好みます。家具や段ボール箱、市販のキャットタワーなどで上下運動できる場所を作りましょう。

外が見える場所

猫は安全なところから外を眺めたり、動くものを見るのが好きです。

かくれ場所①

高いところや狭いところに快適で安心できるかくれ場所を作りましょう。

猫のおもちゃ

安全な猫用のおもちゃを置いておきましょう。一人遊びをしたり、飼い主と遊ぶことでストレスの解消になります。

かくれ場所②

キャリーバッグをかくれ場所としておくと、通院時や災害時の避難にも役立ちます。安全な場所に置きましょう。

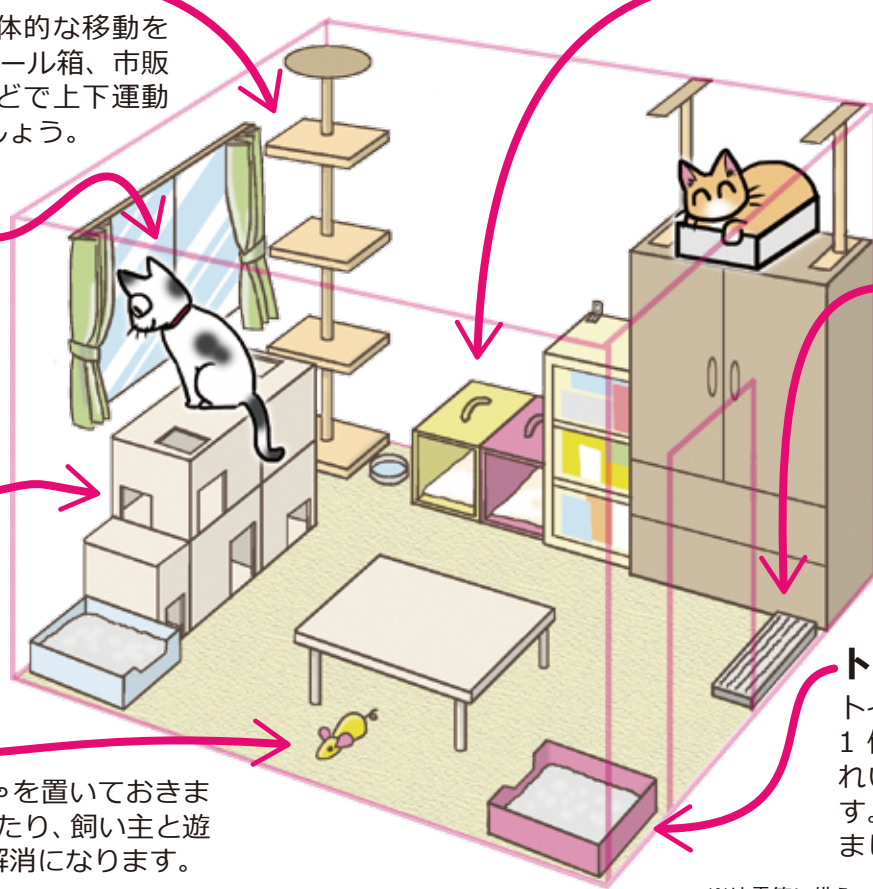
爪とぎ

猫は古い爪を剥がしたり、自分の匂いを付けるために爪をとぎます。家具を傷つけられる前に、猫の好みの爪とぎを用意しましょう。

トイレ

トイレの数は、猫の数+1個が理想です。猫はきれいなトイレを好みます。毎日きれいに掃除しましょう。

※地震等に備えて家具は固定しておきましょう。



Q 室内だけだと運動不足になったりストレスがたまりませんか？

A 上下運動と遊びで十分発散できます。

猫は上下運動したりおもちゃで遊ぶことで十分に運動することができます。飼い主とのコミュニケーションや遊びも大切で、ストレスの解消になります。また、繁殖に係るストレスは不妊・去勢手術でなくすことができます。

Q 室内にはどんな危険がありますか？

A 誤飲に気をつけましょう。

ひもやおもちゃで遊んでいるうちに飲み込んでしまったり、電気コードをかじったり、有毒な観葉植物を食べてしまうことがあります。室内に飲み込んだら危ないものはないか、有毒植物はないか気を配ってください。

Q 万が一の逸走（脱走）防止にどんな対策をすればいいですか？

A 扉の開閉に注意、窓や網戸にロックをつけましょう。

窓や網戸には猫が開けられないようにロックを付けておきましょう。バルコニーには網を張っておくと安心です。人の出入り時に扉から出てしまわないよう注意しましょう。

Q 既に外で飼っている猫を室内飼育することはできますか？

A 少し時間がかかりますが可能です。

最初は習慣で外に出たがりですが、室内の環境を快適にして、外に出さないことを徹底すれば、ほとんどの猫は慣れます。引っ越しなど生活環境の変化を利用すると、比較的容易に室内飼育にすることができます。